

「鵜沼の緑と景観を守る会」機関紙

鵜沼の緑

9月例会・学習会報告



発行 藤沢市鵜沼地区「鵜沼の緑と景観を守る会」

(略称:みどりの会)

事務局 代表 北村裕彦(携帯090-9836-5157)

9月例会・学習会報告

9月例会および学習会は9月16日(日)15時より鵜沼公民館で開催。出席者は16名。司会・古山幹事。書記・佐藤幹事。午前中の高木ふれあい荘の清掃には5名が参加しました。

9月例会報告

1 藤沢市市民活動推進センターの登録更新

登録更新は7月末に済ませました。推進センターの今後のありかたについて検討される予定になっています。

2 旧モーガン邸募金コンサート

～9月2日(日) 藤沢市民会館小ホールで開かれました～

第一部 講演「藤沢の歴史文化を次代に継承するために」

講師 川村恒明元文化庁長官(日本ナショナルトラスト副会長)

川村さんは藤沢市在住。現在多方面で文化活動をされています。

『文化遺産は地域で支えられ、維持され、そして活用されなければならない。』

旧後藤医院は理想的な保存がなされている。』というお話でした。

第二部 オカリナ演奏 揺-YURA-オカリナデュオ(橋詰智章&斉藤智枝)

「ふるさと」「川の流れるように」「となりのトトロ」「アメージンググレース」

などが演奏され、心に響く演奏会でした。コンサートの収益金は旧モーガン邸

修復のために使われるそうです。

3 慶応大学看護医療学部の女子学生3名、高木ふれあい荘清掃奉仕へ

学生たちは市民活動センターのブログを見て北村代表に連絡してきたそうです。

当会から8名が対応。8月24日に実施されました。

4 「街なみ景観フォーラム」については3ページで紹介。

5 その他

- ① 村岡駅新設について。東海道線大船駅と藤沢駅の間に新駅を開設する話が持ち上がっています。土地は貨物線の引込線跡地。駅と駅の間が近すぎることで、藤沢市の負担が100億円あまりかかることなど問題がありそうです。



②「第7回湘南邸園文化祭2012」に今年はみどりの会も参加することは前号の会報でお知らせしました。早速、多くの会員から問い合わせがあり、午前と午後の部の各定員15名はオーバーしそうです。ご希望の方は早めにご連絡下さい。詳細は文化祭のパンフレットをご覧ください。

③公民館まつり参加への準備

◆「津波から守る小さな丘」の模型をつくる。

どんな防潮堤をどのようにつくるか。実験的に当会でやってみようということになりました。関心のある方はぜひご参加下さい。当会顧問の高橋志保彦先生（建築家・都市デザイナー）も協力して下さるそうです。

◆子どもの絵 依頼済み。

◆絵はがきの販売 昨年好評でしたので増刷して販売します。（1枚50円・3枚100円）

◆松の木・花苗配布。 松の木30本・花苗30個。

④みどり活動5団体話し合い

（市自然環境懇話会・鵠沼景観まちづくり会
湘南の散歩道・川名自然フォーラム・当みどりの会）

の5団体が慶応大の高橋助教から提出された資料
「住宅地のまちづくりから考える海岸防災林の可能性」
をもとに宮脇先生の提言を受けて今後の行動を話し合
おうというものです。



2012・9・16

学習会

～有賀市議（会員）に「いのちを守る防潮堤の推進活動」を中心に話を伺いました～

- (1) 7月10日（火）、有賀さんと廣田さん（会員）の2名で仙台市にある「いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会」（以下、「協議会」）の活動を視察。
- (2) 「協議会」は事務局がある輪王寺の参道を通る道路工事で失ったみどりの復元に宮脇先生が関わり、「いのちの森」として平成19年に約3万本の植樹をしたことから始まりました。
- (3) 震災（3・11）を機に輪王寺住職が中心となり、細川元首相が理事長、宮脇先生が副理事長を務める「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の応援組織としての「協議会」を結成。
- (4) 平成23年7月、被害の大きかった仙台市若林区にある「海岸公園冒険広場」の一角に、公園指定管理者NPOと共同し300人／1000本規模の植樹を行い「冒険広場いのちの森」と名付けました。今回視察したのはこの場所です。
- (5) こうした動きに対し、宮城県と仙台市はどのように対応しているか。
 - 宮城県議会は去る7月6日、全会一致で「いのちを守る森の防潮堤」計画を可決しました。決議の最後に「よって、本会議は県当局に対し、自然の猛威を自然の力で減災する森の防潮堤構想実現に向け、国や市町との協議調整を積極的に取り組むよう強く要望する」と結んでいます。

●一方、仙台市はどうか。二人が現地視察する前に仙台市の震災復興、公園行政と会い本事業に関する情報収集を行いました。仙台市としては宮脇先生関連のプロジェクトに積極的

に参画するといった姿勢はうかがえなかったそうです。

(6) 「瓦礫防潮堤に手詰まり感」について

廃棄物処理法という法の壁が立ち塞がっています。木質瓦礫の埋め立てを原則禁じる、という法律ですが、国は岩沼市（宮城県）で実証実験を始めているそうです。その他メタンガス発生とか、地面の陥没などいろいろな問題があり、かって国が作ったことのない構造物であるという観点から、法整備が求められます。

(6) 現地視察の件

先月の会報でお知らせいたしましたように、仙台市の「いのちの森」に加えて「いのちの森を守る森の防潮堤」の視察を構想中。これは「みどり活動5団体」のメンバーを中心に話し合うことになり、9月24日（月）に市民活動推進センターで打ち合わせをします。結果は会報でお知らせします。（10月30日に決定、問い合わせは北村代表まで）

—いのちを守る森の防潮堤推進

東北協議会の資料から—



これからの防潮林

（生命と財産を守る森、防潮林）

【特徴】

それぞれの土地の樹種の選択が基本。その土地本来の深根性・直根性の様々な樹木が互いに支えながら成り立つ森は、最も自然の力強い状態であり、病気や害虫にも強い。多種のポット苗を混植密植させて、植えてから2～3年は除草しなければならないが、あとは管理不要。世代交代を重ねながら、次の氷河期が来る9000年は保たれる。将来、超高木は択伐して地域経済に役立たせる。後継樹が待っているので森の防災環境保全力を維持しながら地域と共生する。人為的影響がなければその土地にあるべき森なので、自然環境教育に最適。

その土地本来の色々な種類の広葉樹
(常在自然植生)による森
(高木・亜高木・低木・草本植物による多層群落的森)

高 木: タブノキ、スダジイ、アラカシ、ヤマザクラ etc
亜高木: ヤブツバキ、モチノキ、ユズリハ、シロダモ etc
低 木: ヒサカキ、ヤツデ、シャリンバイ、トベラ etc



通常時は防風林や防砂林として機能し、
地域の憩いの場として活用できる。
気候の緩和、地球温暖化にも貢献。

深根性・直根性で地中にしっかりと根を張り、
根こそぎ倒れることはない



寄 土



10月の日程



編集会議 10月3日（水）14:00～

会報印刷 10月4日（木）15:00～

公民館まつり

10月20日（土）・21日（日）

ふれあい荘清掃 10月28日（日）9:30～

例会 10月28日（日）15:00～

懇談会 「公民館まつりを終えて」
16:00～

〇邸清掃 10月15日（月）9:30～

幹事会 11月3日（土）10:00～

☆編集係より☆
九月に入ったある日、何人かてつくった句会があり、私の句が話題になりました。
迎え火や泣いてくれるな鉄かぶと
比較的若い人は意味が分からないと言い、比較的年配の人が、遠い戦地で死んだ兵隊さんの鉄兜が土に埋もれ、草が生えている。兵隊さんの魂はお盆になると家に帰ってくる。亡き母が玄關で迎えてくれる。そんな情景が浮かぶなあと云ってくれました。 もう一句
送り火や瓦礫の丘を照らすなり

(佐)

街なみ景観フォーラム

～藤沢の歴史的建造物やまちなみを活用したまちづくり～

街なみ景観フォーラムが9月8日(土)14時から16時まで藤沢市労働会館ホールで行われました。

参加者約200名、みどりの会からは9名参加。パネラーの方々の実践的報告に感動しました。

第1部 [基調講演] 菅孝能氏(山手総合計画研究所代表取締役)

◆菅さんは長年にわたり江の島を始め藤沢の景観・都市計画業務に携わってこられた方です。

- 景観とは何か。景は対象物、森・山・川・建物など。観は見ている私たちの心。価値判断ができ、時間的に捉えることができる、人と人へのメッセージです。
- 今までのスクラップ&ビルドではなく、文化資産を活かした地域マネジメントの時代です。こうした文化的視点が平成16年の景観法へとつながっていったのです。
- 平成元年3月に藤沢市都市景観条例が制定されましたが、これは藤沢の各地域の特性を活かしたまちづくりをめざすものです。この条例を基に藤沢の各地に景観形成地区が指定され、低層住宅地区としては初めて鵠沼のニコニコ自治会地区が指定されました。
- さらに藤沢市はまちづくりを推進するために景観まちづくり賞を設け、現在16団体が受賞しています。
- これからのまちづくりの取組みは地域まちづくり会議を中心に点から線へ、さらに面へと広げていく運動が大切になるでしょう。

第2部 [パネルディスカッション] コーディネーター 菅孝能氏

<パネリスト>

- 小沢朝江氏(東海大教授)
- 皆川裕子氏(旧東海道藤沢宿まちそだて隊隊長)
- 宮田英夫氏(湘南藤沢文化ネットワーク代表)
- 鈴木恒夫氏(藤沢市長)



2012・9・8

<4人の発言内容を紹介します>

皆川氏・・・藤沢宿の紹介と会員150人による自主防犯パトロール。

伊勢山緑地の保全に取り組んでいる。

宮田氏・・・善行雑学大学代表として、毎月善行公民館で講座を開催。毎回約150人が参加している人気講座となっている。

小沢氏・・・藤沢宿の蔵を紹介。米穀・肥料の販売を兼ねた店が多かったという。

まちづくりの要点は自分のまちにプライドを持ち、まちの個性を尊重すること。

鈴木市長・・・藤沢の良さを実感してほしい。文化を大切にすまちにしたい。

市民の意識が高まることがまちづくりの基本です。

藤沢には文化資源がたくさんあります。これを掘り起こしましょう。

最後に小沢氏から発言があり、「持っている道具(景観に関する条例など)をフルに使い切ること。藤沢市はそれらを使い切っていない。何となくではなく、本物・核になるものが大切です。」と提言された。質疑応答の時間がほとんどなく、フォーラムのあり方に少し疑問が残りました。